

# このシーズン、青山高原は『コンサートホール』へと変わります。



ホーッホケキョ〜♪ テッペンカケタカァ♪ ジュウイチ〜ジュイチ♪ ポーン ポーン♪

高原の“小鳥の四重奏”です。鶯・時鳥・慈悲心鳥・筒鳥 が素敵な音色を奏でてくれています。青空の日は、毎日が演奏会の日です。そして、啄木鳥がタクトを振ってくれていますよ！サニーヴィラの木陰で聴く“小鳥の四重奏”贅沢なひとときを・・・

## コンサートの出演者のご紹介です



鶯 ウグイス

体は茶褐色で淡い眉斑があり、体の下面が少し淡く尾が長い小鳥です。メスはオスより一回り小さめで主に日本海を取り巻く地域で繁殖し、日本では全国に分布、繁殖するが、冬は北海道のものは暖地に移動します。藪の中を枝渡りしながら活発に移動し、葉の裏にいる昆虫などを食べ、林床にササが密生している場所を好み、営巣します。

さえずりはよく知られるホーホケキョ♪

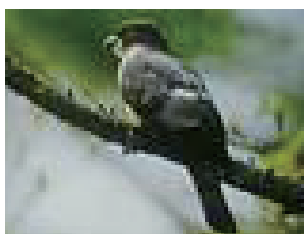
冬はチャッチャッと鳴き、「笹鳴き」と呼ばれています。ウグイス色の鳥はウグイスではなくメジロだそうです。



時鳥 ホトトギス

夏の季節の到来を告げる、代表的な渡り鳥です。ホトトギスは、春のウグイスとならんで、季節の初音として人びとにその鳴き声を待たれました。万葉集にも、この声は田植えをしろうながすために鳴くのだ、とあります。早いものは3〜4月、多くは5月中旬ごろ渡来し、ほかの鳥の巣に卵をうみ、晩秋、南へ去っていきます。高原地帯に多く、昼も夜も鳴いています。

「鳴きながら 皆をもてなす ホトトギス」失礼しました。

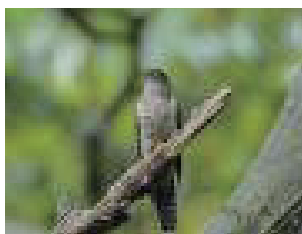


慈悲心鳥 ジヒシンチョウ

カッコウやホトトギスと同じく5月に渡来しているようですが、他のカッコウ類より標高の高い環境を好むらしく、平地や人里近くではほとんど声が聞かれません。

キジバトくらいの大きさで、見た目は小型のタカそのものです。といってもなかなか姿を見る機会の少ない鳥で、近くで鳴いていても枝葉の陰でなかなか姿が見えません。

ジュウイチー、ジュウイチ♪と繰り返す鳴き声から、“十一”とも呼ばれていますが、少し想像力を必要とします。



筒鳥 ツツドリ

全長30センチメートル余りで、体形は小形のタカ類に似ています。背面は暗灰青色、腹面は黄白色の地に黒い横縞があります。他の鳥の巣に托卵(たくらん)します。日本各地の山林に夏鳥として渡来・繁殖し、冬は南方に渡る。ポン♪ポン♪と筒を打つように鳴き、“ポンポンドリ”とも呼ばれています。



慈悲心鳥



筒鳥